

現代文学

鎌倉は過去の由緒ある神社と寺の地であるだけでなく、啓蒙近代作家の地でもあります。明治時代（1868-1912）から始まる近代日本文学の誕生以来、作家と詩人はここに頻繁に住み働いたり、また彼らの作品の舞台として利用しました。

高德院とその大仏はフィクション、詩、日記そして随筆に描かれています。そのような文学作品は大仏が宗教的信仰のためのものと日本の計り知れない文化遺産の重要な一部を占めるものであるだけでなく、日本人により深く愛され、親しみを持たれる対象でもあることを明確に示しています。